

白神ねぎの園芸メガ団地での労働力確保

J A あきた白神（秋田県能代市）

・代表的なメガ団地は轟地区の22ヘクタール。団地化により、20haを2法人・1認定農家・1新規就農者で経営。周年出荷を可能とする「越冬早取り夏ねぎ」の生産本格化で10億円越えの産地に成長。

⇒ 4法人等での周年・季節雇用者は約44名。それ以外のパート労働者は、①秋田県農業労働力サポートセンター設立、②同センターによる支援で13JAに無料人材紹介所の開設と運営支援、③スマホアプリによる1日単位の農業バイトマッチング、など様々なツールを駆使。加えて、行政も、

白神ねぎ生産・市場拡大のため「ねぎ課」を設置

- ・ 2019年、能代市役所は環境産業部に「ねぎ課」を設置。農業振興課との2トップ体制
- ・ 生産／ブランドの強化でA品比率向上と市場シェア拡大



- さらなる規模拡大に向けて、労働力確保策を維持しつつも、今後は、人手のかかる出荷調整作業を省力化できる加工用・業務用ねぎの生産販売比率を高める。

ねぎ課の役割

生産体制強化のため、「ひと」対策のとして、

- ・ 経営主体の確立・支援 😊

- ・ 後継者・新規就農者の確保、育成



- ・ 労働力（通年雇用、季節雇用など）の確保、制度設計

